

第 28 回小泉文夫音楽賞 受賞者と授賞理由

徳丸吉彦

第 28 回の小泉文夫音楽賞をパトリシア＝シーアン・キャンベル氏と時田アリソン氏が受賞されました。お二人の個々の業績については、以下に記す通りですが、キャンベル氏の音楽教育と民族音楽学のインターフェイス研究と時田氏の語り物研究の双方は、故・小泉文夫教授が生前深い関心を持っていた分野であることを指摘しておきます。

小泉教授は、民族音楽学の研究において学習・教授過程を重視しました。子供の歌の収集を行なうとともに、義務教育で使用するための音楽教科書を、小泉賞初代委員長の故・柴田南雄教授他と編集しました。その目的は、それまでの固定した楽曲群ではなく、民族音楽学や西洋音楽史研究の成果を入れて、教育内容を現代化することでした。残念ながら、この教科書は広く使われることはありませんでしたが、その発想は現代の教科書に活かされています。小泉教授の音楽教育と民族音楽学の重なりをさらに深化して、理論的な枠組みを与えたのがキャンベル教授なのです。

小泉教授は世界の語り物に深い関心をもって調査しました。1960 年代後半に開かれた古代ギリシャ音楽に関する研究会で、小泉氏がホメロスの叙事詩を研究するために 1960 年に出版されたアルバート・ロードの著作を紹介して、その新しい方法に焦点を当てる必要を強調しました。このロードの著作が時田氏の最新の研究でも重要な役割を果たしています。

今回受賞されるお二人の研究が、小泉教授の夢を叶えたものであることを、私は嬉しく思います。

(聖徳大学教授・京都市立芸術大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)

時田アリソン教授について

時田アリソン教授はオーストラリアに生まれ、音楽学を主としてメルボルンで学びました。東京藝術大学とフランスのパリ大学でも学びました。時田教授は、江戸時代に生まれた清元節の魅力を日本で知り、その音楽的な構造を博士論文で明らかにされました。その優れた論文は後にドイツのベーレンライター社の日本音楽研究叢書の一冊として出版されました。オーストラリアのモナシュ大学で日本研究を推進され、イギリスのアシュゲイト社から日本音楽を研究するための指針を、多くの日本の研究者とともに公刊されました。その後、日本に活動の拠点を移されて、東京工業大学の教授を勤められ、2014年から京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターの所長として、独創的な着想をもって日本音楽研究を促進するとともに、その成果の社会への普及を推進されています。

その後、研究の範囲を拡げられ、2015年に「語り物」という重要な音楽ジャンルを通して、日本の音楽文化を歴史的にそして、総合的に捉える画期的な著作『日本の物語の歌い手：上演される語り物の10世紀』を発表されました。その中で用いられた多くのパラダイム、例えば、口頭性と書記性の相互建機、作品や様式の構成方法、引用を含む間テキスト性などは、世界の語り物を考える上で大きな役割を果たすでしょう。時田教授は現在、その優れた組織力によって、日本音楽だけでなく、東アジアの音楽についても、共同研究を行い、日本と他のアジア音楽の研究者の成果を広く世界に発信するための努力を行っておられます。

主要著作

2015 *Japanese Singers of Tales: Ten Centuries of Performed Narrative*. Surrey: Ashgate.

1999 *Kiyomoto-bushi: Narrative Music of the Kabuki Theatre*. Kassel: Bärenreiter:

(Studien zur traditionellen Musik Japans: 8.).

2013 *Music, modernity and locality in prewar Japan: Osaka and beyond* edited by Hugh de Ferranti and Alison Tokita Surrey: Ashgate,

2011 *Outside Asia: Japanese and Australian identities and encounters*. edited by Stephen Alomes, Ross Mouer, Peter Eckersall, Alison Tokita. Melbourne: Japanese Studies Centre.

- 2010 *Complicated Currents: Media flows, soft power and East Asia*. Melbourne: Monash ePress. Available online at: www.epress.monash.edu/cc. ISBN 978-0-9804648-8-7 (pb); 978-0-9804648-9-4 (web) Pages: 244. Co-edited with Daniel Black and Stephen Epstein.
- 2008 *The Ashgate Research Companion to Japanese Music*. edited by Alison Tokita and David Hughes, Aldershot: Ashgate.
- 2002 『日本の語り物：口頭性・構造・意義』(Japanese musical narratives: orality, structures, meanings), 時田アリソン、薦田治子(共編著) 京都：日文研叢書 no. 26.